

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立伊賀白鳳高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「力」と「志」を持った職業人を育成し、地域に貢献できる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、判断し、行動する生徒 ・思いやりの心と規範意識をもち社会に貢献する生徒 ・専門的な知識・技術を身につけ、未来を切り拓く生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や実習、学校行事やクラブ活動、地域連携等を通して、子どもたちに「育みたい生徒像」に記載した力を育むべく、主体的に行動する教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の充実と自己実現への支援（進路・学力保障、資格取得、部活動等） <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長（基本的な生活習慣、学力、マナー、部活動等）と進路保障 <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な学校の持つ資源（専門知識、技術、人、施設等）の提供と協力 ・生徒の公共心とマナーが育成され、専門学科としての専門性や特色を生かして地域の活性化に貢献してほしいと期待している。 ・防災拠点 	
	(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した学校生活を通しての子どもたちの成長（学力、マナー、部活動等）、 ・進路保障、安心安全な学校 <p>〈企業等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業人、社会人としての素養の獲得（基礎学力、専門知識・技術、マナーコミュニケーション能力等） <p>〈大学・短大・専門学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学後困らない基礎学力とコミュニケーション能力の定着 <p>〈中学校・小学校・保育園等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門高校としての役割 ・系統的なキャリア教育のパートナー <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の持つ資源（専門知識、技術、人、施設等）の提供 ・地域活性化への貢献 ・防災拠点

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの中には、直接面と向かってコミュニケーションをとることが苦手であったり、メンタル的に弱い子も多くいるのが現状である。こういった生徒に対して、様々な形で生徒に接することで生徒のやる気を引き出し、コミュニケーション力を高め、対人関係を良好にするための取組が必要である。一部とは言え、早期離職する生徒がいる中で、学校生活を通じて目的意識、向上心を高める取組が早期離職に対する対策につながると考えられる。
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の本校に対する一番の期待は進路保障であり、教員は進路ガイダンスや就職先の開拓等に精力的に取り組んでいる。しかし、基礎学力が十分定着していないために就職試験に不合格になる生徒もおり、基礎学力の定着が喫緊の課題となっている。 興味・関心の持てる授業づくりをすすめているが、生徒の学力の幅が大きく、中には授業に集中できない生徒もいる。ICTの活用やアクティブラーニングの活用等授業力を向上させる取組を行い、わかる授業を通して、生徒の興味関心を高める方が求められている。 外国にルーツを持つ生徒や特別な支援を必要とする生徒など、多様な生徒が在籍しており、生徒の人権感覚を磨いていく必要がある。 全ての生徒がすべての分野の実習を体験できることは強みではあるが、反面、専門知識・技術の習得のための期間が短くなってしまいう課題がある。 「若き『匠』育成プロジェクト事業」の取組等により、学科間連携や地域との協働の取り組みはすすんできているが、更なる充実を目指して、引き続き、生徒主体の取組を重視していく必要がある。
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 義務教育段階の基礎学力を身につけないまま入学してくる生徒もおり、教員間で相互に学びあいながら、授業力を一層向上させていく必要がある。 様々な面で支援を必要とする生徒も多く、教育相談の充実、教員間の情報共有と生徒理解、支援体制の充実、家庭との連携等によってきめ細やかな支援が求められている。 職員数の多さや学科の多さが全教職員の意志統一や情報共有を困難にしており、管理職のリーダーシップと風通しの良い職場づくりが課題となっている。また、地域に向けてホームページやマスコミを活用した情報発信を継続していく必要がある。

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己の興味・関心や適性に合った進路を選択し、その実現に向けて、社会で求められる基礎学力、専門知識・技術とともに、社会的マナーやコミュニケーション能力を身につけた生徒を育成する。 検定合格や資格取得、部活動における成果等を通して、生徒の自信とやる気を引き出し、自己実現に向けて努力する生徒を育成する。 生徒の人権感覚を磨き、相手の立場に立って行動することができる、思いやりの心を育てる。 地域の教育力を活用し、生徒が主体的に活躍することで、生徒自らの自尊感情を高め、地域の活性化に貢献できる生徒を育成する。
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教員の授業力向上に取り組む。 生徒の悩みに寄り添い、きめ細やかな教育相談や支援を行う 総勤務時間の縮減や休暇の取りやすい職場など、働きやすい職場づくりをめざす。 風通しのよい職場づくりに取り組み、教職員の情報共有をすすめ、全教職員の意思統一を図る。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体として、生徒に漢字力、計算力、コミュニケーション能力(人の話を正しく理解する力、自分の言いたいことを伝える力)をつけさせる。 学習状況や模試結果の情報共有と分析会の実施。 <p>【成果指標】 校外模試における成績が昨年度を上回っている。</p>		◎
規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 服装やマナー、挨拶の励行に対する意識を高める。 <p>【活動指標】 登校時の声掛け運動、清掃指導、集会指導、校内外のマナー指導が徹底されている。</p> <p>【成果指標】 「自ら考えてその場に応じた行動や発言をしたり、マナーを守ったりすることができている」生徒が90%以上。</p>		◎
検定合格・資格取得	<ul style="list-style-type: none"> 各種検定試験の合格率を向上させ、生徒の学習意欲や自信を育み進路実現につなげる。 <p>【活動指標】 検定対策として勉強会や補習が実施されている。</p> <p>【成果指標】 検定や資格の合格数が昨年度より増加している。</p>		※
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスや相談、情報提供及びキャリア教育によって、早い時期から自己に適した進路を主体的に選択できる力を養う。 <p>【活動指標】 学年別進路ガイダンス、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」等が有効に活用されている。</p> <p>【成果指標】 「就職・進学について自己実現ができた」3年次生徒90%以上。学校斡旋を希望する生徒の内定率100%、進学希望者100%希望実現。</p>		◎
人権学習	<ul style="list-style-type: none"> 人権LHR等を通して生徒の人権感覚を高める。 <p>【活動指標】 少なくとも1つの学年で人権LHRの公開や事前・事後検討が行われている。</p> <p>【成果指標】 「人権学習を通して『自分の大切さと共に他人の大切さを認める力』を高めることができた生徒が95%以上。</p>		
部活動	<ul style="list-style-type: none"> 部活動を通して競技力の向上を図るとともに、人間力の向上を目指す。 <p>【成果指標】 団体3種目以上、個人10人以上が東海大に出場。</p>		
学科間連携・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が地域に出て学ぶ機会や地域の方の校内での指導の機会を増やすとともに、生徒を主体とした学科間連携に取り組む。 <p>【活動指標】 前年度に比べ、生徒を主体とした取組が増えている。</p> <p>【成果指標】 校外での活動機会を年間2回以上実施し、生徒の満足度が上昇している。</p>		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業見学や授業研究、生徒の「授業振り返りシート」の活用を通し、「わかる授業」「魅力ある授業」を構築する。あわせて授業規律を徹底する。 【活動指標】全ての教員が1回以上他の教員の授業を見学している。全ての教科で、「授業振り返りシート」が活用されている。 【成果指標】「意欲的な態度で授業に取り組めた」生徒が85%以上。 		◎
広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・要覧・学校案内の作成をはじめ、保護者や近隣地域への広報の発行による情報提供や入学予定者へのガイドブックの作成を行う。 【活動指標】保護者、管内の小中学校および地域への積極的な広報活動に努める。 【成果指標】地域パートナーへの情報提供により本校への理解を高めている。 		
防災・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・計画・防災編成の作成および避難訓練・危機管理訓練の実施。また、避難計画・危機管理マニュアル・緊急連絡網の見直しおよび計画と作成を行う。 【活動指標】防災意識を高め、災害時、迅速に対応できるようにする。 【成果指標】年2回の防災訓練を、地域消防署と共同で行っている。 		
相談活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の小さな変化を見逃さず、悩みに寄り添った教育相談を行うとともに、支援を必要とする生徒についての情報共有や生徒理解、家庭との連携をすすめ、支援を強化する。 【活動指標】スクールカウンセラーによる相談や関係者による情報交換会が有効に活用されている。 【成果指標】教育相談に係る生徒満足度が昨年度よりも上昇している。 		
情報発信等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取り組みや生徒の様子などを保護者や地域に発信するとともに、要望や意見を聞く機会を設ける。 【活動指標】ホームページが頻繁に更新されている。自治会だよりの発行やマスコミへの情報提供が頻繁に行われている。 【成果指標】前年度より多くの方がホームページにアクセスしている。生徒が保護者や地域等に向けて学習成果を発表できる機会を設ける。 【活動指標】「白鳳Cafe」を年間2回以上実施し、実習製品の展示、販売、中学生による見学会等が有効に活用されている。 【成果指標】イベント等への参加者の数や満足度が、昨年度に比べ上昇している。 		※
働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・総勤務時間の縮減に向け、効率的な業務推進や年休等の制度を有効活用しやすい環境整備に努め、次のことを行う。 定時退校日の設定(月1回以上) 部活動休養日の設定(週1回程度) 会議時間の短縮(会議スマートルールの適用、開催時間は1時間以内を目指す。) 休暇取得日数の増加(昨年度より1日以上を多くとる) 総勤務時間の縮減(昨年度比15%縮減を目指す) 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動に対してすべての教職員が協力・協同して取り組むことができるよう意識の変革と向上を図る。 		
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)